

MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご閲覧ください。(https://www.ms-ins.com/marine_navi/)

豪雨・台風シーズンに向けた「備え」を万全にー経営面・現場での対策のご案内ー

豪雨・台風等の自然災害は、近年、世界的に増加しています。2021年は記録的な速さで梅雨入りしており、気象庁は今夏の多雨を予想し、早めに豪雨災害への備えを進めるよう呼びかけています。本稿では国土交通省が2020年7月に策定した「[運輸防災マネジメント指針](#)」の概要を経営面の対策として解説します。あわせて、豪雨・台風シーズンに向けた現場の「備え」についてご案内します。

1. 経営面の対策ー「運輸防災マネジメント指針」策定の背景ー

運輸事業は国民生活を支える重要インフラです。しかし、日本でも温暖化が進行しており、頻発化する局地的な豪雨は輸送安全の脅威となっています。

2006年に国土交通省は「運輸安全マネジメント制度」を創設しました。これは運輸事業者が経営トップから現場まで一丸となって安全管理体制を構築・改善することにより、輸送の安全性を向上させることを目的としています。

「運輸防災マネジメント指針」は、近年の自然災害の頻発化を受け、「運輸安全マネジメント」を自然災害対応で活用するためのガイダンスとして策定されたものです。

2. 「運輸防災マネジメント指針」の概要

指針では、以下の取り組みの重要性が明記されました。

項目	内容
経営トップによる防災マネジメント	自然災害にどう対峙するかという危機管理、事業継続に要する経営資源の配分等の経営判断において、経営トップが率先して関与し取り組む。
安全管理体制の確実な構築	被災時は、トップダウンによる危機管理体制が必要。経営トップが万一参集できない場合は代理を予め指定したり、社外からでも参加できるWEB会議システムといったシステムも活用した対策をとる。
万全な事前の「備え」	ハザードマップ等を参考に被害想定し、自社拠点等が被災した際の代替措置を検討。あわせて以下の備えを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡網の整備 ・防災マニュアルの整備 ・事業継続計画の策定 ・災害別のタイムライン防災の策定
関係者との連携	被災時は、地方自治体や国の機関、関係事業者等のさまざまな関係者が対応するため、関係者との「顔の見える関係」の構築が防災力を高める。
教育と訓練によるPDCAサイクル	基本理念を習得する教育に加え、災害別の実践的な訓練を定期的実施し、その振り返りを行う。発災時の即応能力を高め、応用力を鍛える。
他事例に学ぶ	実際の自然災害に対応した業種別の取組とその成果と教訓、その後の改善の取組状況を学び、自社の取組に反映させる。 【国交省 HP 取組事例】 https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/unyuanzen_torikumi.html

3. 現場での「備え」ー豪雨・台風シーズンに向けた貨物事故対策ー

現場における事前の備えとして、水害による貨物事故対策についてご案内いたします。

(1) 平時：水害リスクと物流実態の把握

- ・ハザードマップから水害リスクを確認し、必要に応じ物流ルートや保管場所変更を検討します。
- ・物流実態を把握し、貨物保管場所のリスクに対策を講じます。
- ・有事に災害情報にアクセスできるよう、平時から活用方法を把握しておきます。

<参考サイト>「備え」を検討する際に参考となる情報が多く掲載されています。
是非一度ご確認をお願いします。

出典	内容	URL
気象庁	防災情報	https://www.jma.go.jp/jp/warn/
国土交通省	ハザードマップポータルサイト	https://disaportal.gsi.go.jp/
	浸水ナビ（地点別）	https://suiboumap.gsi.go.jp/ShinsuiMap/Map/
	事業者向け有益情報まとめ	https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/content/001401486.pdf

(2) 豪雨・台風シーズンが本格化する前：貨物の集積・滞留回避

- ・ 港頭地区に貨物が長期間滞留・集積することを回避するため、輸送スケジュールを調整します。
- ・ 例年の台風進路にあたる地域や、浸水リスクの高い場所に貨物が集積していないか確認し、保管場所の分散や、輸送スケジュールの変更を行います。
- ・ 荷主と貨物の避難方法について、予め協議しておきます。

(3) 豪雨・台風接近（上陸5日～1日前）：防災対策が行われていることの確認

- ・ 屋外に保管している貨物をこのタイミングで屋内に避難します。
- ・ 以下を中心に防災対策が実施されていることを確認します。

屋内保管貨物のチェックポイント	コンテナで仮保管される貨物のチェックポイント
<input type="checkbox"/> 床の高さは高潮等にも十分耐えられるか。扉は水密構造か。	<input type="checkbox"/> コンテナに損傷はないか。特に天井部・側壁部等に穴や亀裂がないか。
<input type="checkbox"/> 貨物は安定したパレットやラック等に置かれており、床に直置きされていないか。	<input type="checkbox"/> 濡損・破損を受けやすい貨物については密閉式ドライコンテナを使用する。
<input type="checkbox"/> 防潮板は耐波性のある鋼製の横引式か。	<input type="checkbox"/> 岸壁から極力離れたところに置く。
<input type="checkbox"/> 採光窓は風雨・飛来物に耐えられるものか。	<input type="checkbox"/> 極力1段積みとし扉は風上・波の方向を避ける。
<input type="checkbox"/> 上屋・倉庫周辺の排水溝に落ち葉等の堆積物が溜まっていないか。	<input type="checkbox"/> 空コンテナを放置せず、貨物入りコンテナと同様に相互に固定する。
<input type="checkbox"/> 防潮扉、側壁、屋根、採光窓を点検・補修する。	<input type="checkbox"/> コンテナを相互に固定する。
<input type="checkbox"/> シートカバー、扉補強用土嚢を事前確保する。	<input type="checkbox"/> 冷凍冷蔵コンテナは応急電源を用意する。
<input type="checkbox"/> 湿気に弱い貨物は上段又は2階以上に蔵置。	
<input type="checkbox"/> 屋内貨物であってもシート掛けする。	
<input type="checkbox"/> カートン・ボックスの積重ねは極力避ける。	
<input type="checkbox"/> 入口・窓際・排水溝付近を避け、極力2階等、比較的安全な場所へ移動する。	

4. 万一貨物が被災したときは

(1) 取扱代理店または当社に以下をご連絡ください。

- ① 保険証券番号
- ② 貨物情報
- ③ 被災場所（輸送中、積込中、保管中等の情報もご連絡ください）
- ④ 見込損害額
- ⑤ 損害写真

※外航貨物の場合は以下もご提出ください。

Invoice、Packing List、船荷証券または Air Waybill（未発行の場合は Booking 書類）、コンテナ番号（海上輸送の場合）

(2) 国内貨物保険（内航、運送、運賠、有価証券・貨紙幣類等）WEB 事故受付

スマートフォンからでも簡単に連絡できるツールです。24 時間 365 日、空き時間を使って効率的に事故連絡することが可能です。ぜひご活用ください。

国内貨物 WEB 事故受付 URL: <https://marine.ms-ins.com/marine/#/initialize>

スマートフォンからはこちら

の QR コードを読み取ります。



以上

<参考文献一覧>

国土交通省 HP 運輸の安全の確保 : <https://www.mlit.go.jp/unyuanzen/index.html>